

National Clinical Database（以下 **NCD**）は臨床現場の医療情報を体系的に把握し、医療の質の向上に資する分析を行う。その結果を以て市民に最善の医療を提供し、適正な医療水準を維持することを目的とする。2022 年度は、以下の事業を実施した。

（１）医療情報を集積したデータベースの維持管理及び提供について

- 各領域のデータ入力仕様の改訂要望を加盟学会より受け付け、正確なデータ収集を図り、入力プラットフォームの構築を進めた。
- 症例登録において、追跡調査の補助機能を継続的に開発し、フォローアップ情報の入力向上と状況把握を支援した。
- **JCVSD-A**、**JCVSD-C**、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、**J-PCI**、小児外科等の領域で、データの集計・分析結果を施設診療科が確認できるフィードバック関連業務を行った。
- **DPC**・レセプト情報の集積システムの管理およびデータ利活用の研究を継続した。
- **NCD** において、がん登録データベース（乳癌・膀胱癌・肝癌・胃癌・食道癌・腎癌・前立腺癌・膀胱癌・胆道癌・精巣癌等の領域）の維持管理及び開発を進めた。
- 利用者の入力負荷軽減のため、院内情報システムに症例アップロード用フォーマットの活用を促進した。

（２）データベースを活用した医療水準の評価及び臨床研究の支援について

- 各学術団体によるデータ利用研究や学術調査、各学会のアンニュアルレポート作成を支援した。
- データの質の検証業務にリモート型を含め、各領域でのデータ検証を支援した。
- 自施設データダウンロード機能を継続的に提供し、医療品質の評価等に寄与した。
- 各領域の共同研究開発において、**NCD** データを用いた分析業務等を支援した。

（３）データベースの運用による関連団体との業務連携について

- 専門医制度との連携において、各種申請システム等の開発及び維持管理を継続的に行った。
- 産学官連携において、医療機器等に関する製造販売後調査等を支援した。
- 各領域の学術集会において、**NCD** のデータ収集状況や利活用について周知した。

（４）法人の目的を達成するために必要な関連事業ならびに業務について

- **NCD** の運用面を周知するため、データマネージャー等を対象にしたセミナーを開催した。
- 産学連携を積極的に推進し、データの利活用により、**NCD** の財政基盤の強化に貢献する施策を検討した。
- 個人情報の保護、知的財産の管理を行い、業務上のリスクアセスメントを適宜実施した。
- 機密性・完全性・可用性の向上のため、サーバーや作業端末の運用を見直し、クラウド化の対応を進めた。
- ソフトウェアの品質向上に努め、システム保守及び管理業務の安定化を図った。
- 適切なデータ管理のもとで、学術団体と協働した研究実施体制の整備支援を行った。